青森県弘前市亀甲町における祝言のあいさつ

佐藤　和之

○はじめに

1. **対象地の地理的環境**：青森県は本州の最北端に位置する。東北地方の脊梁山脈である奥羽山脈によって、太平洋に面した南部地方と日本海側の津軽地方とに２分割される。ことばもまた、それぞれの地域で話されるものを南部弁、津軽弁と呼び、異なる方言帯をなしている。

　津軽地方は岩木川（本川の流路延長101.6Km ）によって形成された肥沃な沖積平野（津軽平野）で、弘前市はその南西部に位置する。

2. **対象地の社会的経済的環境**：近世には津軽藩十万石の城下町として、また明治初期には弘前県の県都（後に県庁は青森市へ移り、青森県となる）として栄えてきた町であり、明治２２年には青森県内で最も早く市制を施行している。明治後期以降、第２次世界大戦終結までは軍都として栄え、軍隊の解体後は、その残された諸設備を活かして医学専門学校や師範学校、旧制高校などを設置する。現在ではそれらを統合した国立大学を初めとし、４私立大学、各種専門学校、５県立高校、４私立高校などを有する県内最大の文教都市となっている。

3. **生　　業**：人口の約６割が農業に従事しており、中でも全国一の出荷量を誇るりんごの生産・販売やその加工に携わる者が多い。その結果、当市の経済基盤はそれらの収益に依存するところが大となっている。また藩政時代の殖産振興であった伝統工芸（津軽塗）に従事する者も多い。

　当市の産業別構成比率は以下の通り。第１次産業２４％、第２次産業１８％、第３次産業５９％。

4. **交　　通**：ＪＲやバス、私鉄など、津軽域内の諸交通体系は、弘前市に集まるように作られており、津軽地方の中核都市としての機能を果たせるように整備されている。また飛行場への連絡バスや高速道を利用した高速バス、新幹線接続バス、ＪＲの列車など、首都圏を初めとした大都市へのアクセス交通網もよく整備されている。遠隔地への高速交通網と近隣町村とのコミュニティー交通網の両者がバランスよく機能している都市である。

5. 人　　口：１９９０年の国勢調査によると、当市の人口は１７４，７１０人、世帯数が５７，７８３戸と報告されている。１９８５年の国勢調査では１７６，０８２人、５４，９８２世帯であった。当市においても人口の県外流出と核家族化が進行しているようである。

6. 調査年月日：１９９０年１０月１１日から１２月７日まで、数回に分けて行った。

7. 方言話者：石場キミ　明治４４年１２月生まれ（調査時７９歳）
同　席　者：石場清隆　昭和１２年　９　月生まれ
（調査時５３歳、キミさんの長男）
石場家は代々清兵衛を名のる津軽藩出入りの商家で、同席者の清隆氏（石場屋清兵衛）で１８代になる。藩政時代には、藩内の藁工品や荒物を扱っていたが、現在は酒店を営む。当家の建物は、その形式手法から江戸後期の商家の作り（国指定重要文化財：石場家住宅）といわれ、今回ここに収録したものは、城下町の商家のあいさつことばである。

8. 調　査　者：佐藤和之
調査場所：被調査者宅

9. 調査方法：自然談話法による。調査者側の知りたい条件や項目を被調査者に知らせ、その表現やその時の状況などを自由に語ってくれたものを収録・文字化した。

○装　束

サムイバー　ソノコロワ　モンツギ…　モンツギバオリワ　ミッツ　モンツィデル
ソレサ　シマノ　キモノサ　センダイヒラノ　ハガマ　ハイデ　ソレデ
クロタンビ　ハイデ　クロイ　シュスノ　タビ…　ゲダ　ハイデ…
ソシテ　フユノ　サムイ　トキワ　トンビ　キテ…　ニンジューガッパ
マントサー　ワフグヨーノ　トンビ
ソレキテ　コンジョー　カイダ　ジョンバゴ　ヒモツィデ　ムスンデ　ソレド　モグログド　モッデ　オボンサ　イレデ…　ソシテ　ハイルワゲダ

（寒ければ、そのころは紋付、紋付羽織は三つ紋がついている。それに、縞の着物に仙台平の袴をはいて、それで、黒足袋はいて…黒い縞子の足袋。下駄をはいて、そして冬の寒い時は蔦を着て ― 二重合羽、マントのこと、和服用の。蔦。それを着て、口上を書いた状箱 ― 紐が付いて、＜紐を＞結んで、それと目録とを持って、お盆に入れて、そして＜嫁家に＞入る訳です。）

○お嫁さんになるお宅の玄関にて

ゲンカンサ　タッテ
ヘバ　ムゴデ　ショウチシテ
オマチシテマシタハンデ　ドーゾ　オアガリクダサイッテ
ソシテ　ハイッテ

（玄関に立って。そうすると向こうでも承知していて、「お待ちしていましたから、どうぞ　お上がり下さい」って。そして＜家の中に＞入って）

ソレガラ　コンド　シトマンズ　トゴノマ　アレバ　ローガノホーサ　オシリムゲデ　エンガワ　アレバ　エンガワノホーサ　オシリムゲデモイーシクライハンデ　コッツガワサ　リョーシンドヨメ　ゴエンジョド　ネマラセデ…　ソノトギワ　オヨメサンニイグ　ムスメサンワ　ソノコロワ…コモンダベナー…　コモンテ　イェバ　コマイ　アノー　ツズギダモヨーノキモノサ　オビジメデ…
イマワ　フリソデダゲド　ワダシラノ　トギワ　タダ　メーセン
ショミンダハンデサ　チジブ　チジブノ　メーセンテアッテ　ソーユーノキテ　ハオリキネデ　オビシメデ　デルンデス

（それから今度は、ひとまず床の間があれば、廊下の方にお尻を向けて、縁側があれば、縁側の方にお尻を向けてもいいし…。
暗いので、こっち側に両親と嫁、ご縁女＜お嫁さんになる娘さんの別称。嫁ぐ前までは、こう呼ばれる＞とを座らせて…　その時は、お嫁さんに行く娘さんは、その頃は小紋でしょうね…　小紋て言えば、細い あのぅ 続き柄の着物に帯を締めて…。今は振袖だけど、私らの時は、ただの銘仙、庶民だから、秩父…秩父の銘仙ていうのがあって、そういうのを着て、羽織を着ないで帯を締めて出るんです。）

ソシテ　キュージニンサマガ　ソゴサ　アガッテ　トニカグ　ドーゾッテ　ザシキノホーサ　イゲバ　ソーユフニ　スワッテ　ソシテ　コンドァゴアイサズァ　ハジマルワゲサ

（そして給仕人様がそこに上がって、とにかくどうぞって、座敷の方にいけば、そういう風に座って、そして今度はご挨拶が始まる訳です。）

Ⅰ．　結納授受のあいさつ

1.　仲人が新婦の家に結納を持参した時、座敷で、その家の主人（新婦の父親）に向かって、どのようなあいさつをしますか。

○ゴアイサズ　モーシアゲマス
ホンジツワ　オヒガラモヨロシュー　オメデトーゴザイマス
タダイマ　イシバケサマノ　ダイリトシテ　ゴトーケサマエ　ユイノーオ　ジサン　イタシマシテ　ゴザイマス
ドーゾ　イクイサシク　メデタク　ジュノーイタシテ　イタダキタク
ヨロシク　オネガイ　イタシマス

（ご挨拶申し上げます。本日はお日柄もよろしゅう、おめでとうございます。ただ今、石場家様の代理として、ご当家様へ結納を持参いたしました。どうぞ幾久しく、めでたく、受納していただきたく、宜しくお願いいたします。）

2.　その家の主人（新婦の父親）は、仲人に応えて、どのようなあいさつをしますか。

○ホンジツワ　オヒガラモヨロシュー　オメデトーゴザイマス
ゴテーネーナ　ゴアイサツ　キョーシュク　イタシマシテ　ゴザイマス
タダイマ　イシバケサマヨリノ　ゴリッパナ　ゴユイノー　メデタク
イクヒサシク　アリガタク　ジュノーイタシマシテ　ゴザイマス
オヤ　ムスメ　トモドモ　ココロヨリ　アツク　フカク　カサネテ
オレイ　モウシアゲマス

（本日はお日柄もよろしゅう、おめでとうございます。ご丁寧なご挨拶、恐縮いたしましてございます。ただ今、石場家様よりのご立派なご結納、めでたく、幾久しく、ありがたく受納致しましてございます。親娘共々、心より厚く、深く、重ねて御礼申し上げます。）

Ⅱ．　嫁をもらう家の人へのお祝いのあいさつ

1.　嫁をもらうことが決まった家の人に道で出会って、近所の人たちはどのようなお祝いのあいさつをしますか。

○コノタビワ　アンサノオヨメサン　キマテ　ナンボ　オメデテーネサー
ミンナ　ドー　ヨロゴンデシター
オイワイ　モウシマス　ヨガッタネサー

（この度は、ご長男にお嫁さんが決まったそうで、本当におめでたいですねえ。皆、どうお慶びでしたか？お祝い申し上げます。よかったですねぇ。）

2.　嫁をもらう家の人は、そのあいさつに応えて、どのようなあいさつをしますか。

○ワイハ　マダ　ウレシーハ　コドバ　チョウダイシテハー　アリガドーゴス
オガゲデシャー　アンシンヘシタジャー
シューゲンァ　マダァ　ソノウジネ　ヒーラデス　シギ　アゲルンデスネ
ソノトギァ　マダ　ヨロシグ　タノミシテス

（あらぁ、また嬉しい言葉を頂戴して、ありがとうございます。お陰様でねぇ、安心しましたの。祝言は又、その内に日を選びましてね、式を上げるつもりです。その時はまた、宜しくお願いいたします。）

Ⅲ．　嫁に出すことが決まった家の人へのお祝いのあいさつ。

1.　嫁に出すことが決まった家の人に、近所の人たちはどのような挨拶をしますか。

○ヨシコサンノオヨメイリァ　キマタソウデ　ホントニハ　オメデテネサー
キット　ヨメコニシテモ　イ↘　キレイダダ　ヨメコニ　ナルビョン

（美子さんのお嫁入りが決まったそうで、本当におめでたいですねぇ。
きっと花嫁さんになっても、いい、綺麗な花嫁さんになるでしょうね。）

2.　嫁に出す家の人は、そのあいさつに応えて、どのようなあいさつをしますか。

○ワイ↘ーハ　アリガドゴステシ
アレス↘　フトリダハンデドオモッテ　イダドモ…　ドッカサダバ　ヨメニケルネバ　マイネナード　オモッテシタッキャ↗…　シタバタテハナーシャキマッタキャ　ナンダガ　サビシンタ　キニナテ　ケネムスメダハンデ　ムゴサマノ　キニアエバ　イバタテ　イマノ　ムスメダダバネサー
マッ　ムゴサマサ　ヨグ　オネガイシド　オモテシタデァ↘

（あらまぁ、ありがとうございます。あれですねぇ、一人（娘）だからと思っていましたが…。どっかには嫁にやらねばならないと思っていましたが…　そうは言っても、話が決まってしまったら、なんだか寂しいような気になってしまって。ふつつかな娘なものですから、婿様の気にあえばいいのですが、今の娘のことですからねぇ。まぁ、向こう様によくお願いしようと、思っていたところです。）

Ⅳ　結婚式当日のあいさつ

結婚式当日、結婚式に出席した人たちは（親戚以外）、どのようなあいさつをしますか。

1.　新郎の父親にどのようなあいさつをしますか。

○ホンジッワ　ゴリョウケノ　ゴシューゲン　オメデトーゴザイマス
ケッコンシギノ　ゴショウタイオ　イタダキ　ヨロコンデ　サンジョウイタシマシタ
カサネテ　オイワイノ　ゴアイサツオ　モーシアゲマス
（本日はご両家のご祝言、おめでとうございます。結婚式のご招待をい

ただき喜んで参上いたしました。重ねてお祝いのご挨拶を申しあげます。）

1-2 父親は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

○コンニチワ　オイワイノ　コトバオ　チョーダイ　イタシマシテ　アリガタク　ウレシク　ゾンジアゲマス

（今日はお祝いのことばを頂戴いたしまして、有難く、嬉しく存じあげます）

V　結婚式後、姑が新婦を連れて近所へあいさつに回る時のあいさつ

1.　結婚式後、姑が新婦を連れて、近所の家にあいさつをして回る時、姑はどのようなあいさつをしますか。

○ゴメーン　ナサイヘー
キョー　マダ　ヨメゴド　イッショネ　ツレデキシテスー
ゴアイサズニ　アガリマシテスジャー
センコロ　マンダー　ハナムゲヤラ　ナニヤラ　イロイロチョンダイシテ
ホントニ　アリガトゴザイマス
アラダメデ　アズク　オレイ　モーシマス
コンダ　コレノ　ワガイモノド　フタリ　ワレワレ　ドーヨーニ　ヨロシグハ　オネガイ　シマス

（ごめんください。今日はまた、嫁のことを一緒に連れて参りました。ご挨拶にあがりました。先頃はまた、はなむけやら何やら、いろいろ頂戴して、本当にありがとうございます。改めて厚くお礼申します。今度は、この若い者たち二人、我々同様に、宜しくお願いします。）

2.　そのあいさつに応えて、近所の人はどのようなあいさつをしますか。

○ゴテーネーニ　ゴアイサズ　シテモラッテハ　ドーモ　オソレイリマシテスジャー
ナーンボ　イー　オヨメサン　サズガッテ　イーネサー　オメデテーネ

サー
ドーゾ　ワダシラモ　オヤグダハンデサー　マンダ　イロイロ　オセワニ
ナッテ　ヨロシグ　オネガイモーシマステス

（ご丁寧にご挨拶していただいて、どうも恐れ入ります。本当にいいお嫁さんが授かって良かったですねぇ。おめでたいですねぇ。どうぞ私たちも親戚なんですから、またいろいろお世話になって…　宜しくお願い申しあげます。）

VI　嫁を迎えた家の人へのお祝いのあいさつ

1.　10日ほど前に、長男（29歳）に嫁をもらった60歳台の父親へ、結婚式に招かれた50歳台の女性が、昼下がりの路上で、どのようなお祝いのあいさつをしますか。

◆昔から付き合いのある人へのあいさつ（方言的）

○コネンダノ　シューゲンワ　ナーガナガ　リッパナゴドデシタネサー
イェノ　ミナサンモ　タイヘン　ヨロゴンデシタベー
ワダシダッキャハ　チカゴロ　アーシタ　イーシュゲン　ミンダゴド　ゴヘンデシター
ヨメサマモ　キレイダデネサー
イマデモ　ヨシコサンノ　ヨメスガダオ　オモイダシテ　メンゴイ　ヨメコデアッタキャナード　オモッテイステスネン
ホントニ　イーシュゲンダッ…　アドマデモ　オモシロゴサィ
アンサモ　ヨメサモ　ナガイガベサー
シアワヘダ　セカツデ　ホントニ　アンシンシテハ　オメデトゴザイマシター

（この間のご祝言は、なかなか立派なことでしたねぇ。お家の皆さんも、大変喜んでいらしたでしょう。私なんかは、近頃あんなにいいご祝言を見たことはございませんでした。お嫁さんもおきれいでしたねぇ。今でも美子さんのお嫁姿を思い出して ―― 可愛いお嫁さんだったなぁと思っておりました。本当に良いご祝言で…　後までも趣のあることでございます。ご長男もお嫁さんも仲が良いでしょうねぇ。幸せな生活で本当に安心ですねぇ。おめでとうございました。）

◆比較的新しい付き合いの家へのあいさつ（共通語的）

○センジツノ　ゴシューゲンワ　ナンボ　リッパデシタ
オタゲノ　ミナサンモ　タイシタ　ヨロゴンデ　イシタデスベ
ワダシハ　コノゴロ　アシタ　イーシューゲン　ミンダゴドネーハンデ
タンダーハ　オモシロフテ　イマデモ　オモイダシテ　ヒトリデ　ヨロ
ゴンデイマス
イーシューゲンズーモノハ　アドアドマデモ　イーモンダネサー
アンサマモ　ヨメサマモ　ナガムズマシフテ　シアワヘダ　クラシデ
オメデトーゴザイマス

（先日のご祝言は本当に立派でしたねぇ。お家の皆さんも、とても喜んでいらしたでしょう？私はこの頃、あんなに良いご祝言を見たことがないもので、それはもう趣があって、今でも思い出しては、一人で喜んでいるんです。良いご祝言ていうものは、後々までもいいもんですねぇ。ご長男もお嫁さんも仲が良くて、幸せな暮らしで、おめでとうございます。）

2.　父親は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

○センジツワ　ホントニ　アリガトーゴザイマシタ
イーロイロハ　タイシタ　オイワイモノ　チョンダイシテ　ホントニ　ア
リガドーゴザイマス　オレイモーシマス
マダワガクテ　カイネハンデ　ヨロシグオネガイシマス
アリガトーゴザイマシタ
（先日は本当にありがとうございました。色々と、大変なお祝物を頂戴して本当にありがとうございます。御礼申します。まだ若くて、頼りないなもので、宜しくお願いいたします。ありがとうございました。）

Ⅶ　結婚式後の仲人へのあいさつ

1.　結婚式後、仲人の所へ新郎新婦（あるいは両親）がお礼にいった時、どのようなあいさつをしますか。

◆両親のあいさつ

○コノタビノ　シューゲンワ　タダナラナイハ　オジガラオ　オガリシテ

アリガトーゴザイマス
オガゲサマデ　バンターン　トドゴーリナグ　オサマリマシタ
カサネデ　オレイ　モーシアゲマス
コンゴノコドナガラ　フショーナ　オヤコダケド　ナニブントモ　ヨロシグ　ゴシドークダサイマセ
カサネデ　オネガイモーシマス
マンズハ　オレイ　モーシアゲマシテ　ゴアイサツト　イタシマス
アリガトーゴザイマス

（この度のご祝言は、ただならないお力をお借りしてありがとうございます。お陰様で、万端とどこうりなく収まりました。重ねて御礼申しあげます。今後のことながら、不祥な親子ですけれども、何分とも宜しくご指導下さいませ。重ねてお願い申しあげます。まずはお礼申しあげまして、ご挨拶といたします。ありがとうございます。）

◈新郎新婦のあいさつ

○コノタビワ　ワタシドモノタメニ　タイヘン　オホネオリ　イタダキマシテ　アツク　オレイ　モーシアゲマス
オカゲサマデ　フタリトモ　ゲンキデ　タビオ　スマセデマイリマシタ
ホントニ　アリガトーゴザイマス
キョウハ　オミヤゲオ　モッテ　マイリマシタ
コンゴトモ　ヨロシュー　オネガイシマス

（この度は私共のために、大変お骨折りいただきまして、厚く御礼申しあげます。お陰様で二人とも元気で旅を済ませてまいりました。本当にありがとうございます。今日はお土産を持ってまいりました。今後とも宜しくお願いします。）

2.　仲人はそれに応えて、どのようなあいさつをしますか。

○オメダジ　イーフテ　アッタベシー
シンコンリョコハ　ドデ　アリシタバ
（二人とも楽しかったでしょうねぇ。新婚旅行はどうでしたか。）

Ⅷ　嫁のはじめての里帰りのあいさつ

1.　嫁がはじめて里帰りする時、嫁ぎ先の親に、どのようなあいさつをしますか。

○キョー　イェサ　イッテ　キマスケド　オドサダノ　オガサダガラ　イッパイ　オミヤゲ　タクサン　チョーダイシテ　ドーモ　スミマセン
ウレシグ　オモイマス
デワ　コレガラ　イガセデ　モライマス
オイソガシドゴロ　アリガドゴザイマス

（今日、家に行ってきますけれども、お父さんやお母さんからたくさんのお土産を頂戴してどうもすみません。嬉しく思います。では、これから行かせていただきます。お忙しいところを、ありがとうございます。）

2.　両親はそれに応えて、どのようなあいさつをしますか。

○キョウ　ハジメデノ　イェサ　イグンダハンデー　ムゴノ　オヤサ　マジデラベシー
オラダジノ　コドバ　シャベヘヤ
アイサズ　ヘヘヤ
コンゴトモ　ヨロシクッテナッテ　シャベヘ
イシバノ　イェノホワ　シンパイシネデ　ユックラード　アソンデキヘヤ
キツケデ　イゲヘ

（今日、初めて実家に行くんだから、向こうの親さんも待っていらっしゃるでしょう。私たちのことばを伝えて下さいよ。あいさつをして下さいよ。「今後とも宜しく」って伝えて下さいね。石場の家の方は心配しないで、ゆっくりと遊んでいらっしゃいね。気を付けて行きなさいよ。）

【津軽弁と弘前ことば】

キミさんが石場家に嫁いだのは昭和の初期であった。代々続いた商家だったことから招待客も多く、披露宴は3日間続いたという。当時の婚礼の様子を語ってくれたキミさんのことばは、今では聞くことのできなくなった上品な弘前のことばであった。

津軽弁とは、「地理的環境」で記したように、津軽地方で話されることばの総称である。中でも弘前で話される津軽弁は、藩都弘前の担ってきた歴史から、上品で優雅なことばといわれ、prestigeの高いことばと位置付けられている。津軽地方の人々にとって、弘前のことばは「津軽弁の標準語にしたいことば」であり、「良いことば」「きれいなことば」なのである（佐藤和之編『方言と標準語－津軽方言話者の言語意識と言語行動』1989）。prestigeという観点からすれば、現在の県都青森市よりも弘前の方が数段高く扱われることがあり、青森と弘前の関係はちょうど、東京と京都の文化関係に近似する。

そのような優雅さを特徴付けるものとして、一つにはアクセントやイントネーションといった音調上の特徴をあげることができる。それ以外に、

オメデテーネサー　（Ⅱ－1）
イマノ　ムスメダダバネサー（Ⅲ－2）
イーモンダネサー　（Ⅵ－2）

のような「ネサ（ネハ）ことば」もあげられ、ネサことばは弘前特有の女性語である。もう少し文末表現に注目してみると、直接な命令形を避けた

シャベヘヤー　（Ⅷ－2）
アソンデキヘヤ　（Ⅷ－2）
キツケデイゲヘ　（Ⅷ－2）

のような婉曲表現や、

タノミシテス　（Ⅱ－2）
ツレデキシテス　（Ⅴ－1）
オモッテイステス　（Ⅵ－1）

といった謙譲表現がふんだんに使われていることに気付く。丁寧表現の

アリガドーゴス　（Ⅱ－2）
ミンダゴドゴヘン　（Ⅵ－1）
オモシロゴサィ　（Ⅵ－1）

があり、それよりもさらに丁寧な

アリガドーゴステシ（Ⅲ－2）

といった表現も用いられている。

津軽弁は一般に敬語表現が未発達で、粗雑な印象を受けるといわれるが、実際には、津軽十万石を支えてきた、成熟した敬語表現を有しているのである。しかしこれらの表現を用いる人々はいわゆる城下の人々だけで、周辺部の人々は十分に使いこなすことができなかったようである。そこに弘前とそれ以外の都市とのprestige差が生じたのである。

しかし現在では、弘前市内においても、キミさんのような弘前ことばを話す人は少なくなり ― 津軽弁は健在でも敬意の高い表現は語り継がれず ― 敬意の高い部分は共通語が担っているというのが実状である。

（弘前大学）